

吉野宮に幸す時に、柿本朝臣人麻呂の作る歌

三六番

やすみしし 我が大君の 聞こしをす 天の下に  
国はしも さはにあれども 山川の 清き河内と  
御心を 吉野の国の 花散らふ 秋津の野辺に  
宮柱 太敷きませば ももしきの 大宮人は  
舟並めて 朝川渡り 舟競ひ 夕川渡る この川  
の 絶ゆる事なく この山の いや高知らす み  
なそそく 滝のみやこは 見れど飽かぬかも

反歌

三七番

見れど飽かぬ 吉野の川の 常滑の 絶ゆる事な  
く またかへり見む